

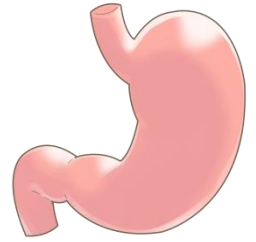
# ピロリ菌って何者？

## ピロリ菌とは

ピロリ菌とは正式名をヘリコバクター・ピロリといい、胃の粘膜に棲みつく細菌です。

ピロリ菌は胃炎や胃潰瘍、胃がんなどの胃の病気に深く関わっています。

先進国の中で日本の胃がん罹患率(胃がんにかかる人の割合)は高く、その原因は日本人のピロリ菌感染率が高いことだと言われています。胃がんを発症した人のうち、およそ90%以上の人がピロリ菌の感染歴があります。ピロリ菌の除菌をすることで、胃がんの発症リスクを下げることができます。



## いつどうやって感染する？

体の免疫機能がしっかりしていない**子どもの頃に感染する**と言われています。上下水道などの衛生環境が整っていない時代に生まれ育った人ほど感染率は高く、50歳代以上では80%以上となっています。10~20歳代でも、子どもの頃に両親から食べ物の口移しなどによって感染している可能性があります。

ピロリ菌は一度感染するとほとんどの場合、**除菌しない限り胃の中に棲み続け**、胃に炎症(慢性胃炎)を起こすことが確認されています。感染したからと言って必ずしも潰瘍や胃がんが発生するわけではありません。しかし、慢性胃炎が続くことで、胃の粘膜の防護機能が弱まり、ストレスや塩分の多い食べ物による影響を受けやすくなります。

## 検査方法は？

当院では、ピロリ菌に対する抗体があるかどうか**血液検査**で調べます。

さらに内視鏡検査で胃の中を観察し、ピロリ菌陽性の慢性胃炎と診断されると、内服薬での除菌治療が必要となります。



## ピロリ菌の除菌ってどうするの？

ピロリ菌の除菌は、1種類の「胃酸の分泌を抑える薬」と2種類の「抗菌薬」の合計3種類の**除菌薬を服用**します。1日2回、7日分服用する治療法です。

除菌薬を飲み終わって4週間後に必ず**除菌が成功したかどうかを判定する検査(尿素呼気試験)**を受けましょう。

ピロリ菌の除菌成功率は100%ではありません。

一次除菌での成功率は70~90%です。二次除菌での成功率は約90%で、一次除菌と二次除菌成功者は感染者の90%以上になります。



### 《注意点》

- ・除菌薬は指示されたとおりに服用してください。  
(自分の判断で服用を中止すると除菌に失敗したり、治療薬が効きにくいピロリ菌が現れることとなります)
- ・除菌中はアルコールの摂取や喫煙を避けてください。



# ペプシノーゲンって？

## ペプシノーゲンとは？

ペプシノーゲンは胃粘膜から分泌される物質で、胃液に含まれるペプシン（たんぱく質を分解する酵素）の元となっています。ペプシノーゲンは胃粘膜が委縮した状態になると低下するため、血液中のペプシノーゲンを測定することで**胃粘膜の萎縮度（老化度）**をみることができます。



## 萎縮性胃炎とは？

胃の慢性的な炎症が長い間続くと、胃酸を出す胃腺が収縮し、胃粘膜が薄く血管が透けてみえるようなペラペラの状態になります。この**胃粘膜が萎縮した状態を『萎縮性胃炎』**といいます。萎縮性胃炎が進行すると**胃がんになるリスクが非常に高くなります**。そのため、萎縮性胃炎をいち早く発見することが胃がんの早期発見につながります。

# ABC 検診がオススメです

ABC検診とは、ピロリ菌抗体検査とペプシノーゲンを測定し、その組み合わせから胃がん発生のリスクを分類し評価する検診です。

	A 群	B 群	C 群	D 群
ピロリ菌抗体 検査	—	+	+	—
ペプシノーゲン 検査	—	—	+	+
胃がんリスク	低			高

### ※D 判定について

胃粘膜の萎縮が高度に進行すると、ピロリ菌抗体が陰性となることがあります。これはピロリ菌の自然排菌の他、加齢などにより抗体価が低下した場合があります。そのため、内視鏡検査等で萎縮性胃炎の診断がついた場合はピロリ菌抗体検査以外の方法（尿素呼気試験・抗原検出など）を追加で実施すべきだとされています。